

# 生活科 実態調査の実施にあたって

## I 実施方法

1. 各段階の目標や、前回は行われた実態調査をもとに、それぞれの児童生徒の実態を以下の12の内容に沿って調査する。生活科の内容は、自ら考えて、判断し、表現等をしていく中で、知識や技能を身に付けていくことを重視し、(ア)思考力、判断力、表現力等、(イ)知識及び技能の観点から実態を把握する。

「ア基本的生活習慣」、「イ安全」、「ウ日課・予定」…主に基本的な生活習慣に関する内容  
「エ遊び」、「オ人との関わり」、「カ役割」、「キ手伝い・仕事」、「ク金銭の扱い」…主に生活や家庭に関する内容  
「ケきまり」、「コ社会の仕組みと公共施設」…中学部における社会につながる内容  
「サ生命・自然」、「シものの仕組みと働き」…中学部における理科につながる内容

2. 生活科に関連する単元の指導期間や、単元終了後に評価する。年度末につけた評価について見直す。

3. ○は調査項目を達成しており、いつでも、一人でできるものにつける。△は教師の支援によってできるものや、条件付きでできるものなどにつける。

4. △をつけた場合には、どんな条件だとできるのかを備考欄に端的に記入する。

5. △や無印の部分については、今後、個別の指導計画に反映することを検討する。

## II 留意点

生活科 実態調査表を使用するにあたり、以下の点に留意する。

○使用にあたっては、中学部の社会科、理科及び職業・家庭科と系統的・発展的に指導できるように留意する。

○現状、指導要領解説等から、調査項目を作成しているため、分かりづらい部分がある。  
※今後、より具体的な子どもの姿として、表すことができるように調査項目を改定していく。

○調査項目が設定できていない段階や領域がある。今後、加筆していく。

生活科 ア 基本的な生活習慣

段階	知識及び技能			
	段階の目標	指導事項	調査項目	判定
小1段階	活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴に関心をもつとともに、身の回りの生活において必要な基本的な習慣や技能を身に付けるようにする。	簡単な身辺処理に関する初歩的な知識や技能を身に付けること。	【食事】:食事前の手洗いや配膳、食後の片付けをすることができる。	
			【用便】:用便の手順に沿って用を足したり、用後は手を洗ったりすることができる。	
			【寝起き】:一人で就寝することができる。	
			【清潔】:洗面や歯磨きをしたり、手や顔をタオルで拭いたりすることができる。	
			【身の回りの整理】:持ち物の整理や、自分の衣服や靴などを決められた場所に置くことができる。	
			【身なり】:簡単な衣服、長靴等の着脱ができる。	
小2段階	活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴や変化に気付くとともに、身近な生活において必要な習慣や技能を身に付けるようにする。	身近な生活に必要な身辺処理に関する基礎的な知識や技能を身に付けること。	【食事】:食事中は立ち歩かず、こぼさず食べようとしている。	
			【用便】:男女の便所を区別する、鍵をかけるなど、一連の流れができる。	
			【寝起き】:定時に寝起きしたり、寝床の準備や片付けをしたりすることができる。	
			【清潔】:汚れた手足を洗ったり、着替えたりしている。	
			【身の回りの整理】:収納場所や方法などが分かり、収納することができる。	
			【身なり】:衣服の前後や裏表を正しく着ることができる。	
小3段階	活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わりに関心をもつとともに、生活に必要な習慣や技能を身に付けるようにする。	日常生活に必要な身辺処理等に関する知識や技能を身に付けること。	【食事】:一人で食事し、準備や片付けを友達と協力して行うことができる。	
			【用便】:トイレのいろいろな種類の鍵の使用法が分かり、一人で用を足すことができる。	
			【寝起き】:自分で寝床を準備したり、片付けたりすることができる。	
			【清潔】:汚れたタオルを洗ったり、洗濯カゴに衣類を入れたりすることができる。	
			【清潔】:入浴時、身体各部の洗い方やふき方が分かる。	
			【身の回りの整理】:靴や衣服などの整理や、かばんや文具などの収納ができる。	
			【身なり】:そで口や襟もと、すそを整えるなど、身だしなみを整えることができる。	

段階	思考力、判断力、表現力等			
	段階の目標	指導事項	調査項目	判定
小1段階	自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて関心を持ち、感じたことを伝えようとする。	簡単な身辺処理に気付き、教師と一緒に行動しようとする。	【食事】:食事の流れや基本的な行動の方法に気付いている。	
			【用便】:尿意や便意を伝えようしたり、用便や手洗いの手順に気付き、教師と一緒に行動しようとしている。	
			【寝起き】:寝間着に着替えようしたり、寝室に向かっている。	
			【清潔】:自分から洗面や歯磨きをしようしたり、手や顔をタオルで拭こうとしている。	
			【身の回りの整理】:自分の持ち物や使った物を決められた場所に置こうとしている。	
			【身なり】:簡単な衣服の着脱の仕方や、長靴等の身に付け方に気付いている。	
小2段階	自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて気付き、感じたことを表現しようとする。	必要な身辺処理が分かり、身近な生活に役立てようとする。	【食事】:食事中は立ち歩かず、こぼさず食べるなど、食事中のマナーについて分かる。	
			【用便】:用便前後の流れと基本的な方法が分かり、実践しようとしている。	
			【寝起き】:少しの言葉がけで寝起きしようしたり、就寝する前に布団を準備したりしようとしている。	
			【清潔】:身体各部や衣服の汚れが分かる。	
			【身の回りの整理】:ハンガーに服を掛けるなど、適した収納の方法で収納場所をしまおうとしている。	
			【身なり】:衣類の着脱前後に、前後や裏表を確認している。	
小3段階	自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて理解し、考えたことを表現することができるようにする。	必要な身辺処理や集団での基本的な生活習慣が分かり、日常生活に役立てようとする。	【食事】:マナーを守って一人で食事をしようしたり、準備や片付けを友達と協力して行おうとしている。	
			【用便】:鍵の使用から用便、手洗いなど、一人で行動している。	
			【寝起き】:寝床の準備や片付けなど、一人で行動している。	
			【清潔】:汚れたタオルを洗おうしたり、衣類を洗濯カゴに入れようとしている。	
			【清潔】:入浴時、身体全体を洗ったり拭いたりしようとしている。	
			【身の回りの整理】:収納場所や収納方法が分かり、整理整頓をしようとしている。	
			【身なり】:そで口や襟もと、すそなど、身だしなみを整えようとしている。	

活動例
食事前の手洗い、配膳、食後の片付け 尿意や便意を伝える、手順に沿って用を足す、用便後の手洗い 洗面、歯磨き 持ち物の整理 衣服の着脱
宿泊学習 寝床の準備、片付け 着替え、着脱後の確認
食事、準備や片付け トイレ、鍵の使用 寝床の準備、片付け 洗濯 入浴 整理整頓 着替え、身支度

生活科 イ 安全

段階	知識及び技能			判定
	段階の目標	指導事項	調査項目	
小1段階	活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴に関心をもつとともに、身の回りの生活において必要な基本的な習慣や技能を身に付けるようにする。	安全に関わる初歩的な知識や技能を身に付けること。	【危険防止】: 階段や段差などに注意して歩くことができる。	
			【交通安全】: 教師と一緒に信号や標識に従い、道路を横断することができる。	
			【避難訓練】: 指示に従って、教師と一緒に避難することができる。	
			【防災】: 地震や火事などの災害、消防署などの施設設備が分かる。	
段階	段階の目標	指導事項	調査項目	判定
小2段階	活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴や変化に気付くとともに、身近な生活において必要な習慣や技能を身に付けるようにする。	安全や防災に関わる基礎的な知識や技能を身に付けること。	【危険防止】: 安全な遊び方や遊具・器具の使い方が分かる。	
			【交通安全】: 自動車や自転車、歩行者用信号、踏切などに気をつけて歩くことができる。	
			【避難訓練】: 「火事」、「地震」、「避難」などの言葉の意味が分かり、友だちと一緒に避難することができる。	
			【防災】: 危険な場所や安全な場所が分かり、教師や友だちと一緒に安全に行動することができる。	
段階	段階の目標	指導事項	調査項目	判定
小3段階	活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わりに関心をもつとともに、生活に必要な習慣や技能を身に付けるようにする。	安全や防災に関わる知識や技能を身に付けること。	【危険防止】: 安全に器具等を扱ったり、危険な場所や状況を回避したりすることができる。	
			【交通安全】: 「止まれ」や「横断歩道」などの標識に従い、左右を確認して道路を渡ることができる。	
			【避難訓練】: 教師の指示を聞いて、適切に行動している。	
			【防災】: 災害に関心を持ち、その場の状況を捉えて行動したり、避難場所に移動したりすることができる。	

段階	思考力、判断力、表現力等			判定
	段階の目標	指導事項	調査項目	
小1段階	自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて関心を持ち、感じたことを伝えようとする。	身の回りの安全に気付き、教師と一緒に安全な生活に取り組もうとすること。	【危険防止】: 階段や段差などに注意して歩こうとしている。	
			【交通安全】: 教師と一緒に道路の横断を体験し、安全に通行しようとしている。	
			【避難訓練】: 教師と手をつなぐなどして、避難している。	
			【防災】: 教師と一緒に活動することで、危険な場所があることに気付いている。	
段階	段階の目標	指導事項	調査項目	判定
小2段階	自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて関心を持ち、感じたことを表現しようとする。	身近な生活の安全に関心を持ち、教師の援助を求めながら、安全な生活に取り組もうとすること。	【危険防止】: 遊具・機器で安全に遊ぼうとしている。	
			【交通安全】: 自動車や自転車、歩行者用信号などに気をつけて歩こうとしている。	
			【避難訓練】: 避難時に友達と一緒に適切に行動しようとしている。	
			【防災】: 危険な場所に気付き、教師や友だちと一緒に安全に行動しようとしている。	
段階	段階の目標	指導事項	調査項目	判定
小3段階	自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて理解し、考えたことを表現することができるようにする。	日常生活の安全や防災に関心を持ち、安全な生活をしよう心がけること。	【危険防止】: 自分で気をつけて安全に器具等を扱ったり、危険な場所や状況を知らせ自分から回避したりしようとしている。	
			【交通安全】: 自分から標識を見たりや左右を確認したりして、道路を渡ろうとしている。	
			【避難訓練】: 教師の指示を適切に理解し、適切な行動の必要性が分かる。	
			【防災】: 土砂崩れや河川の増水、地震や火事などの災害に関心を持ち危険から離れようとしている。	

活動例
日常の実際の生活 交通安全教室 校外学習 避難訓練
日常の実際の生活 交通安全教室 校外学習 避難訓練
日常の実際の生活 交通安全教室 校外学習 避難訓練

生活科 ウ日課・予定

段階	知識及び技能			判定
	段階の目標	指導事項	調査項目	
小1段階	活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴に関心をもつとともに、身の回りの生活において必要な基本的な習慣や技能を身に付けるようにする。	簡単な日課について、関心をもつこと。	【日課】:教師と同じような行動を教師からの言葉掛けを聞いたり、手をとってもらったりしながら、それらに従って一緒に行動できる。	
段階	段階の目標	指導事項	調査項目	判定
小2段階	活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴や変化に気付くとともに、身近な生活において必要な習慣や技能を身に付けるようにする。	身近な日課・予定について知ることを。	【日課】:教師の言葉掛けを聞いたり、次の行動を示したカード等を見たりして、次に何をするのが分かる。	
			【予定】:下校後や明日の予定など、身近な予定が分かる。	
段階	段階の目標	指導事項	調査項目	判定
小3段階	活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わりに関心をもつとともに、生活に必要な習慣や技能を身に付けるようにする。	日課や身近な予定を立てるために必要な知識や技能を身に付けること。	【日課・予定】:一週間程度の予定が分かり、学校行事や家庭の予定などに従って行動することができる。	
			【日課・予定】:急な予定の変更に対応することができる。	

段階	思考力、判断力、表現力等			判定
	段階の目標	指導事項	調査項目	
小1段階	活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴に関心をもつとともに、身の回りの生活において必要な基本的な習慣や技能を身に付けるようにする。	身の回りの簡単な日課に気付き、教師と一緒に日課に沿って行動しようとする。	【日課】:簡単な日課に気付き、行動しようとしている。	
段階	段階の目標	指導事項	調査項目	判定
小2段階	自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて気付き、感じたことを表現しようとする。	身近な日課・予定が分かり、教師の援助を求めながら、日課に沿って行動しようとする。	【日課】:言葉掛けやカード等を手掛かりに、一人で日課に沿って行動しようとしている。	
			【予定】:予定を聞いたり予定表を自分から見たりして、見直しをもって過ごしている。	
段階	段階の目標	指導事項	調査項目	判定
小3段階	日課や身近な予定を立てるために必要な知識や技能を身に付けること。	日常生活の日課・予定が分かり、およその予定を考えながら、見直しをもって行動しようとする。	【日課・予定】:カレンダーや予定表を見て学校行事や家庭の予定などに従って行動しようとしている。	
			【日課・予定】:都合により予定が変更する場合にも、自分から予定表を変更するなどして対応しようとしている。	

活動例
学校生活全般
学校生活全般 朝の活動、帰りの活動
学校生活全般 朝の活動、帰りの活動

生活科 エ遊び

段階	知識及び技能			判定
	段階の目標	指導事項	調査項目	
小1 段階	活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴に関心をもつとともに、身の回りの生活において必要な基本的な習慣や技能を身に付けるようにする。	身の回りの遊びや遊び方について関心をもつこと。	【いろいろな遊び】：自分の好きな遊びを見付けたり、遊具を使って遊んだりすることができる。	
			【いろいろな遊び】：教師とごっこ遊びをすることができる。	
			【遊具の後片付け】：教師と一緒に使った物を片付けることができる。	
			【遊具の後片付け】：周囲の動きに合わせて片付けをすることができる。	
段階	段階の目標	指導事項	調査項目	判定
小2 段階	活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴や変化に気付くとともに、身近な生活において必要な習慣や技能を身に付けるようにする。	簡単なきまりのある遊びについて知ること。	【いろいろな遊び】：友だちと遊具を使って遊ぶことができる。	
			【いろいろな遊び】：鬼ごっこなどの簡単なルールのある遊びができる。	
			【遊具の後片付け】：自分で使った遊具を片付けることができる。	
			【遊具の後片付け】：友達と一緒に大きな物を協力しながら運び収納することができる。	
段階	段階の目標	指導事項	調査項目	判定
小3 段階	活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わりに関心をもつとともに、生活に必要な習慣や技能を身に付けるようにする。	きまりのある遊びや友達と仲良く遊ぶことなどの知識や技能を身に付けること。	【いろいろな遊び】：順番を守ったり交代をしたりするなどの約束が分かる。	
			【いろいろな遊び】：勝ち負け、役割などが分かり、複数のルールのある遊びをすることができる。	
			【遊具の後片付け】：収集場所や収納方法が分かり、進んで片付けることができる。	

段階	思考力、判断力、表現力等			判定
	段階の目標	指導事項	調査項目	
小1 段階	自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて関心をもち、感じたことを伝えようとする。	身の回りの遊びに気付き、教師や友達と同じ場所で遊ぼうとすること。	【いろいろな遊び】：おもちゃや遊具を試したり、十分に身体を動かしたりしようとしている。	
			【いろいろな遊び】：教師の働きかけを受け入れたり、まねをしようしたりしている。	
			【遊具の後片付け】教師の誘いを受け入れて一緒に片付けている。	
			【遊具の後片付け】：自分から片付けをしようとしている。	
段階	段階の目標	指導事項	調査項目	判定
小2 段階	自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて気付き、感じたことを表現しようとする。	身近な遊びの中で、教師や友達と簡単なきまりのある遊びをしたり、遊びを工夫しようしたりすること。	【いろいろな遊び】：遊びの場や遊具を友達と共有している。	
			【いろいろな遊び】：簡単なルールのある遊びを友だちと関わりながら一緒に遊んでいる。	
			【遊具の後片付け】：自分で使った遊具を元の場所に片付けようとしている。	
			【遊具の後片付け】：大きな物を片付けるときに、友達を手伝ったり、協力を仰いだりしている。	
段階	段階の目標	指導事項	調査項目	判定
小3 段階	自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて理解し、考えたいことを表現することができるようにする。	日常生活の遊びで、友達と関わりをもち、きまりを守ったり、遊びを工夫し発展させたりして、仲良く遊ぼうとすること。	【いろいろな遊び】：順番や交代など友だちと協力しながら、工夫して遊んでいる。	
			【いろいろな遊び】：友達と一緒にルールを守って遊んでいる。	
			【遊具の後片付け】：向きや位置をそろえて、所定の場所に自分から進んで片付けている。	

活動例
好きな遊び、ごっこ遊び、遊具を使った遊び 遊具の片付け
鬼ごっこなどの簡単なルールのある遊び 大きく身体活動ができる遊具を活用した遊び 遊具の片付け
順番を守る、交代をする ルールのある遊び 準備、後片付け

生活科 オ 人との関わり

段階	知識及び技能			判定
	段階の目標	指導事項	調査項目	
小1 段階	活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴に関心をもつとともに、身の回りの生活において必要な基本的な習慣や技能を身に付けるようにする。	身の回りの人との関わり方に関心をもつこと。	【自分自身と家族】：自分自身や家族のことが分かる。	
			【自分自身と家族】：自分の好きなことや物を話したり見せたりして、簡単な自己紹介をすることができる。	
			【身近な人との関わり】：教師や友達、親戚、隣人などの名前を覚えたり、挨拶をしたりすることができる。	
			【身近な人との関わり】：表情、身振り、物、絵カードなどの方法で、コミュニケーションをとることができる。	
			【電話や来客の取次ぎ】：来訪した人や電話に注意を向けることができる。	
			【気持ちを伝える対応】：気持ちを表す言葉があることが分かる。	
段階	段階の目標	指導事項	調査項目	判定
小2 段階	活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴や変化に気付くとともに、身近な生活において必要な習慣や技能を身に付けるようにする。	身近な人との接し方などについて知ること。	【自分自身と家族】：家族の名前が分かる。	
			【身近な人との関わり】：教師や友達の名前が分ったり、見聞きしたことなどを話したりすることができる。	
			【電話や来客の取次ぎ】：人の来訪を伝えたり、短い言葉の伝言をしたりすることができる。	
			【気持ちを伝える対応】：「ありがとう」や「ごめんなさい」と言う場面が分かる。	
段階	段階の目標	指導事項	調査項目	判定
小3 段階	活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよき、それらの関わりに関心をもつとともに、生活に必要な習慣や技能を身に付けるようにする。	身近な人との簡単な対応などをするための知識や技能を身に付けること。	【自分自身と家族】：自分自身や家族について、仕事や兄弟姉妹関係などを説明することができる。	
			【身近な人との関わり】：見聞きしたことややりたいことを教師や友達と話し合えることができる。	
			【電話や来客の取次ぎ】電話や来客時の取り次ぎに必要な言葉が分かる。	
			【気持ちを伝える対応】：御礼や謝罪などの気持ちを相手に理解してもらえよう。気持ちを込めて言うことができる。	

段階	思考力、判断力、表現力等			判定
	段階の目標	指導事項	調査項目	
小1 段階	自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて関心を持ち、感じたことを伝えようとする。	教師や身の回りの人に気付き、教師と一緒に簡単な挨拶などをしようとする。	【自分自身と家族】：自分の名前を呼ばれたときに身振り、表情、挙手や発声などで返答しようとしている。	
			【自分自身と家族】：自分や家族のことに、教師の質問に応じている。	
			【身近な人との関わり】：身近な人にお辞儀をしたり、手を振ったり、握手したりして挨拶をしている。	
			【身近な人との関わり】：友達と手をつないだり、身振りや言葉で簡単な要求を表現したりしている。	
			【電話や来客の取次ぎ】：人の来訪や電話がかかってくることに気付き、関心をもっている。	
			【気持ちを伝える対応】：教師の手本をまねて、「ありがとう」や「ごめんなさい」などの気持ちを表している。	
段階	段階の目標	指導事項	調査項目	判定
小2 段階	自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて気付き、感じたことを表現しようとする。	身近な人を知り、教師の援助を求めながら挨拶や話などをしようとする。	【自分自身と家族】：家族の名前を紹介したり、尋ねられたときに頷いたりしている。	
			【身近な人との関わり】：教師や友だちに自分から挨拶をしたり、見聞きしたことを伝えたりしようとしている。	
			【電話や来客の取次ぎ】：人の来訪や電話の着信について知らせようとしている。	
			【気持ちを伝える対応】：友達や教師に、適切な場面で「ありがとう」や「ごめんなさい」などを伝えようとしている。	
段階	段階の目標	指導事項	調査項目	判定
小3 段階	自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて理解し、考えたことを表現することができるようにする。	身近な人と自分との関わりが分かり、一人で簡単な対応などをしようとする。	【自分自身と家族】：自分自身や家族について、仕事や兄弟姉妹関係などにも触れて簡単に話したり、紹介したりしている。	
			【身近な人との関わり】：学校や家庭等での出来事を自分から話している。	
			【電話や来客の取次ぎ】：電話や来客時には「はい、〇〇です」、「今替わります」、「〇〇先生、電話です」などと言って、適切に取次ぎをしている。	
			【気持ちを伝える対応】：誰に対しても、状況に応じて気持ちをこめて御礼を伝えたり謝罪したりしようとしている。	

活動例
自己紹介、呼名に身振り、表情、挙手や発声などにより返答する 挨拶 見聞きしたことについて会話する、ごく簡単な要求を表現する 教師に促され「ありがとう」や「ごめんなさい」などの気持ちを表す
家族の紹介 自分から挨拶する 見聞きしたことや遊んだことを話す 人の来訪を伝える、電話の取次ぎをする 適切な場面で「ありがとう」や「ごめんなさい」などと言う
自分自身や家族について詳しく紹介する 簡単な日常の挨拶、教師や友達と話し合う、出来事を話す 電話の取次ぎ

生活科 カ役割

段階	知識及び技能			判定
	段階の目標	指導事項	調査項目	
小1段階	活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴に関心をもつとともに、身の回りの生活において必要な基本的な習慣や技能を身に付けるようにする。	集団の中での役割に関心をもつこと。	【集団の参加や集団内での役割】: 集団の中で、教師と一緒に自分の役割を担うことができる。	
			【地域の行事への参加】: 地域の行事で、大人と一緒に自分の役割を担うことができる。	
			【共同での作業と役割分担】: 教師と一緒に作業において分担された個人の役割を担うことができる。	
段階	段階の目標	指導事項	調査項目	判定
小2段階	活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴や変化に気付くとともに、身近な生活において必要な習慣や技能を身に付けるようにする。	簡単な係活動などの役割について知ること。	【集団の参加や集団内での役割】: 集団活動で自分や友達の役割が分かる。	
			【地域の行事への参加】: 地域の行事の中で地域の人たちと一緒に活動することができる。	
			【共同での作業と役割分担】: 学級や学年の作業分担の中で、自分の役割を果たすことができる。	
段階	段階の目標	指導事項	調査項目	判定
小3段階	活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わりに関心をもつとともに、生活に必要な習慣や技能を身に付けるようにする。	集団の中での簡単な役割を果たすための知識や技能を身に付けること。	【集団の参加や集団内での役割】: 他の係を意識しながら、活動の見通しをもって自分の役割を果たすことができる。	
			【地域の行事への参加】: 地域の人たちと協力して、行事の準備や後片付けができる。	
			【共同での作業と役割分担】: 作業分担や役割が分かり、自分の役割に沿って活動を進めることができる。	

段階	思考力、判断力、表現力等			判定
	段階の目標	指導事項	調査項目	
小1段階	自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて関心をもち、感じたことを伝えようとする。	身の回りの集団に気付き、教師と一緒に参加しようとする。	【集団の参加や集団内での役割】: いろいろな行事に参加しようとしている。	
			【地域の行事への参加】: 地域の行事に参加し、楽しんでいる。	
			【共同での作業と役割分担】: 簡単な作業を共同で行おうとしている。	
段階	段階の目標	指導事項	調査項目	判定
小2段階	自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて気付き、感じたことを表現しようとする。	身近な集団活動に参加し、簡単な係活動をしようとする。	【集団の参加や集団内での役割】: 集団活動で簡単な係活動を果たそうとしている。	
			【地域の行事への参加】: 地域の行事に参加し、大人の援助を受けて、簡単な買い物や活動をしている。	
			【共同での作業と役割分担】: 友達と互いに協力して楽しく作業に取り組もうとしたり、よろこびや意欲の高まりを表現したりしている。	
段階	段階の目標	指導事項	調査項目	判定
小3段階	自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて理解し、考えたことを表現することができるようにする。	様々な集団活動に進んで参加し、簡単な役割を果たそうとする。	【集団の参加や集団内での役割】: 積極的に様々な集団活動に参加し、活動の準備や活動における役割を主体的に果たそうとしている。	
			【地域の行事への参加】: 友達と一緒に行事に参加し、主体的に地域の行事の催物などを楽しんでいる。	
			【共同での作業と役割分担】: 作業分担や役割に、自分から取り組んだり、役割を果たしたりしようとしている。	

活動例
行事に参加する。集団の中で役割を果たす簡単な作業を共同で行う
係活動 地域の行事に参加する作業
様々な集団活動に参加する行事に参加する。行事の準備や後片付けをする分担して作業する

生活科 キ手伝い・仕事

段階	知識及び技能			判定
	段階の目標	指導事項	調査項目	
小1 段階	活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴に関心をもつとともに、身の回りの生活において必要な基本的な習慣や技能を身に付けるようにする。	簡単な手伝いや仕事に関心をもつこと。	【手伝い】:教師と一緒に物を配ったり届けたりできる。	
			【手伝い】:教師と一緒に伝言を届けることができる。	
			【手伝い】:教師の作業を手伝うことができる。	
			【整理整頓】:自他の学習用具等の区別ができる。	
			【整理整頓】:自分のロッカーや鞆などに用具を収納することができる。	
			【整理整頓】:教師と一緒に、不要物の選別をしたり、不要物を捨てたりすることができる。	
			【戸締まり】:窓や扉の開閉をし、その意味が分かる。	
			【掃除】:自分の出したごみを捨てることできる。	
			【掃除】:掃除道具を使って簡単な掃除をすることができる。	
			【掃除】:任された場所の掃除をすることができる。	
【後片付け】:自分が使用した道具等を運ぶことができる。				
【後片付け】:手伝いや仕事が終わったことを教師に伝えることができる。				
段階	段階の目標	指導事項	調査項目	判定
小2 段階	活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴や変化に気付くとともに、身近な生活において必要な習慣や技能を身に付けるようにする。	簡単な手伝いや仕事について知ること。	【手伝い】:印刷物の配付や教材の運搬など、簡単な手伝いや仕事の仕方が分かる。	
			【手伝い】:教師と一緒に簡単な道具や器具を使用することができる。	
			【整理整頓】:自分の物や友達が使った物など、身近な物の整理の仕方が分かる。	
			【戸締まり】:扉や窓の開閉方法、施錠方法が分かる。	
			【戸締まり】:どのようなときに扉や窓を開け閉めするのかが分かる。	
			【掃除】:掃除用具の名称や使い方、掃除場所が分かる。	
			【後片付け】:自分や友達が使用した道具の片付けをすることができる。	
段階	段階の目標	指導事項	調査項目	判定
小3 段階	活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わりに関心をもつとともに、生活に必要な習慣や技能を身に付けるようにする。	手伝いや仕事をするための知識や技能を身に付けること。	【手伝い】:道具や器具の扱いに慣れ、安全に手伝いや仕事をするところ。	
			【整理整頓】:自分の所持品や学級の備品などの整理をすることができる。	
			【戸締まり】:いつ、どのようなときに窓や扉の開閉が必要か、窓をどのくらい開けたらよいか分かり、開け閉めできる。	
			【掃除】:それぞれの場所に適した掃除の方法や手順、用具の使い方などで、掃除をすることができる。	
			【後片付け】:報告や片付けをすることは、集団生活における大切なルールであることが分かる。	

段階	思考力、判断力、表現力等			判定
	段階の目標	指導事項	調査項目	
小1 段階	自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて関心を持ち、感じたことを伝えようとする。	身の回りの簡単な手伝いや仕事を教師と一緒にしようとする。	【手伝い】:教師と一緒に物を配ったり届けたりしようとしている。	
			【手伝い】:教師と一緒に伝言を届けようとしている。	
			【手伝い】:教師の作業を手伝おうとしている。	
			【整理整頓】:教師と一緒に自分の所持品の整理をしようとしている。	
			【整理整頓】:教師と一緒に友達や学級の物の整理しようとしている。	
			【整理整頓】:教師と一緒に不要物の選別をしたり、不要物を捨てたりしようとしている。	
			【戸締まり】:教師と一緒に窓の開閉や鍵の開け閉めをしている。	
			【掃除】:教師と一緒に身の回りがあるごみを捨てて捨てる。	
			【掃除】:教師と一緒に掃除道具を使って簡単な掃除をしている。	
			【掃除】:任された場所を捉えて掃除をしようとしている。	
【後片付け】:自分が使用した道具等を片付けようとしている。				
【後片付け】:手伝いや仕事が終わったことを教師に伝えようとしている。				
段階	段階の目標	指導事項	調査項目	判定
小2 段階	自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて気付き、感じたことを表現しようとする。	教師の援助を求めながら身近で簡単な手伝いや仕事をしようとする。	【手伝い】:印刷物の配付や教材の運搬などの手伝いを、できるだけ自分でしようとしている。	
			【手伝い】:教師と一緒に簡単な道具や器具を使用して、作業の手伝いをしようとしている。	
			【整理整頓】:自分の机やロッカー、学級の備品などを、できるだけ自分で整理している。	
			【戸締まり】:できるだけ自分で扉や窓を開閉したり、施錠したりしている。	
			【戸締まり】:適切な場面で、扉や窓の開閉をしようとしている。	
			【掃除】:できるだけ一人で任された場所の簡単な掃除をしている。	
			【後片付け】:使用した道具を友達と協力しながら片付けようとしている。	
段階	段階の目標	指導事項	調査項目	判定
小3 段階	自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて理解し、考えたことを表現することができるようにする。	日常生活の手伝いや仕事を進めようとする。	【手伝い】:道具や器具を扱いながら、自分から様々な活動の手伝いをしようとしている。	
			【整理整頓】:自分の所持品だけでなく、友達の使った物や学級の備品の整理を自分からしようとしている。	
			【戸締まり】:窓や扉の開閉が必要なときに、開け閉めしようとしている。	
			【掃除】:教室内の掃除や分担された場所の掃除を自分からしている。	
			【後片付け】:自分から手伝いや仕事の終了時に報告をしたり、所定の場所に道具等を片付けたりしようとしている。	

活動例
物を配ったり届けたりする。伝言、手伝い整理、不要物の選別、不要物を捨てる。窓や扉の開閉、施錠開錠ごみを捨てる、掃除
印刷物を配る、運搬の手伝い、作業の手伝い整理。扉や窓の開閉、施錠掃除。使用した道具の片付け
道具や器具を扱う、手伝い整理。窓の開閉、鍵の開け閉め。分担された場所の掃除。報告、所定の場所に道具等を片付ける

生活科 ク 金銭の扱い

段階	知識及び技能			判定
	段階の目標	指導事項	調査項目	
小1段階	活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴に関心をもつとともに、身の回りの生活において必要な基本的な習慣や技能を身に付けるようにする。	金銭の扱い方などに関心をもつこと。	【金銭の扱い】: 金銭を大切に扱ったり保管したりすることができる。	
			【金銭の扱い】: 硬貨や紙幣の種類ごとに分類したり、数えたりすることができる。	
			【金銭の扱い】: 違い道に従ってお金を遣うことができる。	
			【買い物】: 教師と一緒に一連の流れに沿って買い物をすることができる。	
			【買い物】: 教師と一緒に目的に合う、決まった額の買い物をすることができる。	
			【自動販売機等の利用】: 自動販売機に金銭を入れ、商品を選んでボタンを押し、品物を取り出すことができる。	
小2段階	活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴や変化に気付くとともに、身近な生活において必要な習慣や技能を身に付けるようにする。	金銭の扱い方などを知ること。	【金銭の扱い】: 実際に金銭を支払い、金銭の価値や使い方が分かる。	
			【金銭の扱い】: お年玉やお小遣いなど、自分のお金を財布や貯金箱に大切に保管することができる。	
			【買い物】: 「これ、ください」など、買い物に必要な言葉が分かる。	
			【買い物】: 決まった額を支払うことができる。	
			【買い物】: 複数の商品の中から買う物を選ぶことができる。	
			【自動販売機の利用】: 自動販売機に金銭を入れ、商品を選んでボタンを押し、品物を出すというおおよその使い方が分かる。	
小3段階	活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わりに関心をもつとともに、生活に必要な習慣や技能を身に付けるようにする。	日常生活に必要な身辺処理等に関する知識や技能を身に付けること。	【金銭の扱い】: 日常生活では、金銭が必要なことが分かる。	
			【金銭の扱い】: 金銭の種類ごとに分類して数えたり、必要に応じて両替をしたりすることができる。	
			【金銭の扱い】: 違い道を考えてお金を遣ったり、必要に応じて銀行などを活用したりすることができる。	
			【買い物】: 目的に応じた買い物をすることができる。	
			【買い物】: 「幾らですか」、「〇個ください」などの買い物に必要な言葉を使うことができる。	
			【買い物】: おつりのある簡単な買い物をすることができる。	
【買い物】: 値札を見て所持金内で買い物をすることができる。				
【自動販売機の利用】: 簡単な券売機や自動販売機などを利用することができる。				

段階	思考力、判断力、表現力等			判定
	段階の目標	指導事項	調査項目	
小1段階	自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて関心をもち、感じたことを伝えようとする。	身の回りの生活の中で、教師と一緒に金銭を扱おうとすること。	【金銭の扱い】: 教師と一緒にお金を大切に扱おうとしている。	
			【金銭の扱い】: 教師と一緒に硬貨や紙幣を分類したり、数えたりしようとしている。	
			【金銭の扱い】: 教師と一緒に金銭の違い道を考え、違い道に従って代金を支払っている。	
			【買い物】: 買いたい品物を選んでレジまで持って行く、店の人に金銭を渡す、品物を袋に入れるなど、買い物の一連の流れを教師と一緒にやっている。	
			【買い物】: 教師と一緒に目的や金額を確かめて買い物をしようとしている。	
			【自動販売機等の利用】: 教師と一緒に自動販売機を利用している。	
小2段階	自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて気付く、感じたことを表現しようとする。	身近な生活の中で、教師に援助を求めながら買い物をし、金銭の大切さや必要性について気付くこと。	【金銭の扱い】: 教師に援助を求めながら、できるだけ自分で金銭を支払っている。	
			【金銭の扱い】: 自分のお金を財布や貯金箱に入れて保管している。	
			【買い物】: 「これ、ください」など、買い物に必要な言葉を使っている。	
			【買い物】: 決まった額の物をできるだけ一人で買っている。	
			【買い物】: できるだけ自分で品物を選んで買い物をしている。	
			【自動販売機の利用】: できるだけ一人で自動販売機を使って買い物をしている。	
小3段階	自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて理解し、考えたことを表現することができるようにする。	必要な身辺処理や集団での基本的な生活習慣が分かり、日常生活に役立てようとする。	【金銭の扱い】: 金銭を大切に扱っている。	
			【金銭の扱い】: 硬貨や紙幣を数えて金額を答えている。	
			【金銭の扱い】: 自分がお金の違い道を考え、買い物や貯金の計画を立てている。	
			【買い物】: 目的をもって買い物をしている。	
			【買い物】: レジの場所を見付けたり、分からないことを尋ねたりしている。	
			【買い物】: 合計金額より多い額を支払っている。	
【買い物】: 値札を見て所持金で買えるか判断して買おうとしている。				
【自動販売機の利用】: 一人で券売機や自動販売機を利用している。				

活動例
買い物、品物を選んでレジまで持って行く、店の人に金銭を渡す、品物を袋に入れる 自動販売機を使う、自動販売機に金銭を入れる、商品を選んでボタンを押し、品物を取り出す
金銭を支払う、自分の金銭を保管する 買い物、商店などで品物を選んで買う 自動販売機を利用する
金銭の種類ごとに分類して数える、両替をする、違い道を考えて遣う、必要に応じて銀行などを活用する 目的に応じた買い物をする、買い物に必要な言葉を使う、簡単なおつりのある買い物をする、値札を見て自動販売機など利用する

生活科 ケきまり

段階	知識及び技能			判定
	段階の目標	指導事項	調査項目	
小1段階	活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴に関心をもつとともに、身の回りの生活において必要な基本的な習慣や技能を身に付けるようにする。	簡単なきまりについて関心をもつこと。	【自分の物と他人の物の区別】:他人の物を無断で持ち出さず、借りた物は必ず返すことができる。	
			【学校のきまり】:教師の言葉掛けや合図などを聞いて、学校生活の簡単なきまりを守って行動することができる。	
			【日常生活のきまり】:日常生活における簡単なきまりが分かる。	
段階	段階の目標	指導事項	調査項目	判定
小2段階	活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴や変化に気付くとともに、身近な生活において必要な習慣や技能を身に付けるようにする。	簡単なきまりやマナーについて知ること。	【自分の物と他人の物の区別】:他人の物や学校の物品を無断で持ち出さない。	
			【学校のきまり】:学校生活では、廊下の片側通行、靴を履き替える場所、登校時刻や下校時刻など様々なきまりがあることが分かる。	
			【日常生活のきまり】:交通ルールが分かる。	
			【日常生活のきまり】:公共交通機関や公共施設を利用する際のきまりが分かる。	
			【マナー】:食事のマナーなど、身近な生活におけるマナーが分かる。	
段階	段階の目標	指導事項	調査項目	判定
小3段階	活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わりに関心をもつとともに、生活に必要な習慣や技能を身に付けるようにする。	簡単なきまりやマナーに関する知識や技能を身に付けること。	【自分の物と他人の物の区別】:物を適切な方法で貸し借りすることができる。	
			【自分の物と他人の物の区別】:落とし物を拾ったときに、持ち主に返すとよいことが分かる。	
			【学校のきまり】:必要に応じて簡単なきまりを相談してつくることができる。	
			【日常生活のきまり】:公共施設や公共交通機関のきまりを守って利用することができる。	
			【日常生活のきまり】:非常時以外は触らないなど、非常用設備の使用法を守ることができる。	
			【マナー】:バスや電車、病院や図書館などでは静かに行動することができる。	

段階	思考力、判断力、表現力等			判定
	段階の目標	指導事項	調査項目	
小1段階	自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて関心を持ち、感じたことを伝えようとする。	身の回りの簡単なきまりに従って教師と一緒に行動しようとする。	【自分の物と他人の物の区別】:名前や印を見て、自他の物を区別している。	
			【学校のきまり】:決まった場所で靴を履き替えたり、廊下は静かに歩いたりしている。	
			【日常生活のきまり】:日常生活における簡単なきまりを守りながら、進んで公共施設等を利用している。	
段階	段階の目標	指導事項	調査項目	判定
小2段階	自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて関心を持ち、感じたことを表現しようとする。	身近で簡単なきまりやマナーに気付き、それらを守って行動しようとする。	【自分の物と他人の物の区別】:他人の物や学校の物品を無断で持ち出してはいけないことに気付き、守ろうとしている。	
			【学校のきまり】:学校生活では、様々なきまりがあることに気付き、それを守っている。	
			【日常生活のきまり】:信号を守ったり、左右を確かめて道路を横断しようとしている。	
			【日常生活のきまり】:停留所や駅などでは順番を守って並んだり、公園など決められた場所ですぐに遊んでいる。	
			【マナー】:正しい姿勢で食事をする。食事中は席に座っている。口に食物が入っているときは話さないなど、身近な生活におけるマナーを守って行動しようとしている。	
段階	段階の目標	指導事項	調査項目	判定
小3段階	自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて理解し、考えたことを表現することができるようにする。	日常生活の簡単なきまりやマナーが分かり、それらを守って行動しようとする。	【自分の物と他人の物の区別】:物を貸し借りする適切な方法が分かり、それらを守って行動しようとしている。	
			【自分の物と他人の物の区別】:落とし物を拾ったときは、教師に届けたり、持ち主を探したりしている。	
			【学校のきまり】:必要に応じてつくったきまりを守っている。	
			【日常生活のきまり】:公園や図書館などの公共施設や、電車やバスなどの公共機関を利用する際のきまりを守って行動しようとしている。	
			【日常生活のきまり】:非常用設備について、普段はそれらに触れないこと、非常時における使用法についておおよそ分り、守ろうとしている。	
			【マナー】:バスや電車、病院や図書館などでは静かに行動したり過ごしたりするなど、公共の場でのマナーについてその理由が分かり、守って行動しようとしている。	

活動例
自他の物を区別する。物の貸し借り、校外学習、乗り物や公共施設を利用する
活動例
廊下の右側通行、決まった場所で靴を履き替える、登校時刻や下校時刻などを守る。信号を守って横断する。並んで順番を待つ、乗り物の乗降、決められた場所で遊ぶ。正しい姿勢で食事をする。食事中は席に座る。口に食物が入っているときは話さない
活動例
物の貸し借り、落とし物を届ける。簡単なきまりを相談してつくる。公園や図書館などの公共施設や、電車やバスなどの公共機関を利用する

生活科 コ 社会の仕組みと公共施設

段階	知識及び技能			判定
	段階の目標	指導事項	調査項目	
小1 段階	活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴に関心をもつとともに、身の回りの生活において必要な基本的な習慣や技能を身に付けるようにする。	身の回りの社会の仕組みや公共施設の使い方などについて関心をもつこと。	【家族・親戚・近所の人】：家族や親戚の様子に関心をもつことができる。	
			【学校】：教室の場所や用途に関心をもつことができる。	
			【学校】：身近な先生と一緒に気持ちを安定させて生活することができる。	
			【いろいろな店】：店の名前やそれぞれの店で売っている品物に関心をもつことができる。	
			【社会の様子】：自分が住んでいる地域の出来事、自然や町の様子に関心をもつことができる。	
			【公共施設の利用】：身近な公共施設の場所や名前が分かり、大人と一緒に利用することができる。	
			【交通機関の利用】：公共の交通機関に関心をもつことができる。	
			【交通機関の利用】：公共の交通機関を利用する際の支払い方法に関心をもつことができる。	

段階	思考力、判断力、表現力等			判定
	段階の目標	指導事項	調査項目	
小2 段階	活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴や変化に気付くとともに、身近な生活において必要な習慣や技能を身に付けるようにする。	身近な社会の仕組みや公共施設の使い方などを知ること。	【家族・親戚・近所の人】：家族のそれぞれの役割や、身近な地域で働く人に関心をもつことができる。	
			【学校】：学校にある教室の名称や主な用途が分かる。	
			【学校】：学校で働く様々な人に関心をもつことができる。	
			【いろいろな店】：いろいろな種類の店やそこで販売している商品が分かる。	
			【社会の様子】：自分が住む町の公共施設やいろいろな商店、河川や山、公園などの、おおよその名称が分かる。	
			【公共施設の利用】：図書館、体育館、児童館などの身近な公共施設のおおよその働きが分かる。	
			【交通機関の利用】：いろいろな交通機関があることが分かる。	

段階	知識及び技能			判定
	段階の目標	指導事項	調査項目	
小3 段階	活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わりに関心をもつとともに、生活に必要な習慣や技能を身に付けるようにする。	日常生活に関わりのある社会の仕組みや公共施設などを知ったり、活用したりすること。	【家族・親戚・近所の人】：家族や親戚、近所の人々の名前や職業が分かる。	
			【学校】：学校で働く人と自分との関わりに関心をもつことができる。	
			【いろいろな店】：いろいろな店の種類が分かり、それぞれの店の名称やそこで扱っている商品の名前を言うことができる。	
			【社会の様子】：自分の住む地域や隣接する市町村の名称、周辺の地域の田畑、大きな河川、商業地や工業地、住宅地などのおおよそが分かる。	
			【社会の様子】：地域で見られる産業に関心をもつことができ、その働きが分かる。	
			【社会の様子】：国民の祝日に関して、そのおおよその意味が分かる。	
			【公共施設の利用】：警察署、消防署などのおおよその仕事の様子や、社会の一員としての利用の仕方が分かる。	
			【交通機関の利用】：切符の買い方や、電車やバスの利用方法が分かる。	

段階	思考力、判断力、表現力等			判定
	段階の目標	指導事項	調査項目	
小1 段階	自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて関心をもち、感じたことを伝えようとする。	身の回りがある社会の仕組みや公共施設に関心をもつこと。	【家族・親戚・近所の人】：隣近所の人などに関心を持ち、自分との関わりに関心をもつことができる。	
			【学校】：教室や特別教室などの場所や名前を知ろうとしている。	
			【学校】：身近な先生の名前を覚えようとしている。	
			【いろいろな店】：近隣や通学路にある店について伝えている。	
			【社会の様子】：自分の住む近所には商店、公園、学校、駅などがあることに気付いている。	
			【公共施設の利用】：大人と一緒に身近な公園や図書館、駅などの公共施設を安全に利用している。	
			【交通機関の利用】：大人と一緒に電車やバスなどを利用している。	
			【交通機関の利用】：大人と一緒に乗降時には様々な方法で支払う体験をしている。	

段階	思考力、判断力、表現力等			判定
	段階の目標	指導事項	調査項目	
小2 段階	自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて関心をもち、感じたことを表現しようとする。	教師の援助を求めながら身近な社会の仕組みや公共施設に関心をもつこと。	【家族・親戚・近所の人】：家族がそれぞれ役割をもっていることや、身近な地域で働く人に関心をもつことができる。	
			【学校】：学校にある教室の名称や主な用途が分かり、教師と一緒に用途に合わせて使っている。	
			【学校】：学校で働く様々な人に関心をもつことができる。	
			【いろいろな店】：大人と一緒にいろいろな種類の店で買い物をしている。	
			【社会の様子】：自分が住む町の公共施設やいろいろな商店、河川や山、公園などの様子について、名称や場所などを伝えている。	
			【公共施設の利用】：教師の援助を受けながら図書館、体育館、児童館などの身近な公共施設を適切に利用している。	
			【交通機関の利用】：教師の援助を受けながら電車やバスなどを利用し、切符を購入したり、料金を支払ったりしている。	

段階	思考力、判断力、表現力等			判定
	段階の目標	指導事項	調査項目	
小3 段階	自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて理解し、考えたことを表現することができるようにする。	日常生活に関わりのある社会の仕組みや公共施設が分かり、それらを表現すること。	【家族・親戚・近所の人】：家族や親戚、近所の人々の名前や、身近に見られる職業について伝えている。	
			【学校】：学校で働く人の職業名と果たしているおおよその役割を説明している。	
			【いろいろな店】：商品はどこで生産されたのか、どこから運ばれたのかなどを調べ記録している。	
			【社会の様子】：テレビや新聞、インターネット等で身近な地域について調べ、記録している。	
			【社会の様子】：テレビや新聞、インターネット等で、地域で見られる産業について調べ、記録している。	
			【社会の様子】：国民の祝日について調べ、カレンダー等で確認したり記録したりしている。	
			【公共施設の利用】：警察署、消防署などを実際に訪問したり、見学したりして、利用の仕方やおおよその仕事の様子について伝えている。	
			【交通機関の利用】：電車やバスなどの切符を自動券売機などで買おうとしている。	
【交通機関の利用】：目的地までの交通機関や、交通機関が遅延した際の対応方法が分かる。				

活動例
校内探検 校外学習 公共施設を利用する。身近な公園や図書館、駅などを利用する 電車やバスなどを利用する

活動例
買い物に行く 公共施設や商店、河川や山、公園、図書館、体育館、児童館などを利用する 電車やバスなどを利用し、切符を購入したり、料金を支払ったりする

活動例
調べ学習 テレビや新聞、インターネット等で身近な社会の出来事を知る 警察署、消防署などを訪問したり、見学したりする 日常的に利用している電車やバスなどの切符を自動券売機などで買う。電車やバスを一人で利用して通学に慣れる。交通機関が遅延した際の対応

生活科 サ生命・自然

段階	知識及び技能			判定
	段階の目標	指導事項	調査項目	
小1 段階	活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴に関心をもつとともに、身の回りの生活において必要な基本的な習慣や技能を身に付けるようにする。	身の回りの生命や自然について関心をもつこと。	【自然との触れ合い】：自然の事物や事象に触れ、生き物などに興味や関心をもつことができる。	
			【動物の飼育・植物の栽培】：身近に生息する小動物や草花に関心をもつことができる。	
			【動物の飼育・植物の栽培】：飼育している身近な動物や栽培している植物に興味をもつことができる。	
			【季節の変化と生活】：天気や空の様子、四季に関心をもつことができる。	
			【季節の変化と生活】：地域の行事と季節の関係について知る。	
段階	段階の目標	指導事項	調査項目	判定
小2 段階	活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴や変化に気付くとともに、身近な生活において必要な習慣や技能を身に付けるようにする。	身近な生命や自然について知る。	【自然との触れ合い】：自然が姿を変えることを知ったり、動物の動きなどに興味をもつことができる。	
			【動物の飼育・植物の栽培】：生き物への興味や関心を持ち、簡単な世話の仕方が分かる。	
			【季節の変化と生活】：天候の変化や、太陽、月、星などと昼夜との関わり、冬は寒く夏は暑いなどの季節の特徴に関心をもつことができる。	
段階	段階の目標	指導事項	調査項目	判定
小3 段階	活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよき、それらの関わりに気付くとともに、生活に必要な習慣や技能を身に付けるようにする。	日常生活に関わりのある生命や自然について関心をもって調べること。	【自然との触れ合い】：自然の事物の形や色などの特徴、植物の変化に関心をもって調べることができる。	
			【自然との触れ合い】：自然の事象として天候の変化について関心をもって調べることができる。	
			【動物の飼育・植物の栽培】：身近にいる虫や動物の飼育方法や植物の栽培方法を調べたり、成長の様子を長期にわたって観察したりすることができる。	
			【季節の変化と生活】：天気予報や台風などの情報に関心を持ち、調べることができる。	
			【季節の変化と生活】：太陽の出没の方角や月の満ち欠けなどについて調べることができる。	
【季節の変化と生活】：四季の変化や季節と行事の関係に関心をもつことができる。				

段階	思考力、判断力、表現力等			判定
	段階の目標	指導事項	調査項目	
小1 段階	自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分の関わりについて関心を持ち、感じたことを伝えようとする。	身の回りがある生命や自然に気づき、それを教師と一緒にみんなに伝えようとする。	【自然との触れ合い】：公園、川、野山などで遊んだり、自然を利用した遊びをしたりしている。	
			【動物の飼育・植物の栽培】：身近に生息する小動物や草花を探して様子を観察したり、触れたりしている。	
			【動物の飼育・植物の栽培】：飼育・栽培している小動物や草花の世話をしたり育てたりして、成長や変化に気付いている。	
			【季節の変化と生活】：天気の移り変わりや四季の特徴や気付いたことを伝えようとしている。	
			【季節の変化と生活】：季節の行事に自分から積極的に参加しようとしている。	
段階	段階の目標	指導事項	調査項目	判定
小2 段階	自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分の関わりについて気づき、感じたことを表現しようとする。	身近な生命や自然の特徴や変化が分かり、それらを表現しようとする。	【自然との触れ合い】：自然の事物や事象、動物などに触れ、それらの変化を伝えようとしている。	
			【動物の飼育・植物の栽培】：小動物を飼育したり、植物を栽培したりし、変化を伝えようとしている。	
			【季節の変化と生活】：天候の変化や、太陽、月、星などと昼夜との関わり、季節の特徴について伝えようとしている。	
段階	段階の目標	指導事項	調査項目	判定
小3 段階	自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分の関わりについて理解し、考えたことを表現することができるようにする。	日常生活に関わりのある生命や自然の特徴や変化が分かり、それらを表現すること。	【自然との触れ合い】：草木、木の実、落ち葉などを集め、形や色などの特徴をつかんだり、植物の変化を捉え記録したりしている。	
			【自然との触れ合い】：自然の事象として天候の変化などを記録している。	
			【動物の飼育・植物の栽培】：飼育環境を整えながら身近にいる虫や動物を飼育したり、除草や追肥をしながら植物を栽培したりし、その変化を表現している。	
			【季節の変化と生活】：天気予報や台風などの情報について伝えている。	
			【季節の変化と生活】：太陽の出没の方角や月の満ち欠けなどの様子を記録している。	
【季節の変化と生活】：四季の変化や季節と行事の関係について伝えている。				

活動例
身近な自然の中で遊ぶ、自然を利用した遊びをする 小動物や草花の観察、動物の飼育、植物の栽培 天気や空の様子を観察する
自然の事物や事象に触れる 小動物を飼育する 天候の変化や、太陽、月、星などと昼夜との関わり、季節の特徴に関心をもつ
草木、木の実、落ち葉などを集める、自然の事象として天候の変化などについて学習する 昆虫、魚、小鳥の飼育や草花などを栽培する、動物を飼育する、植物を栽培する 天気予報や台風などの情報に関心をもつ、太陽の出没の方角や月の満ち欠けなどを観察する、四季の変化、季節と行事の関係に関心をもつ

生活科 シものの仕組みと働き

段階	知識及び技能			判定
	段階の目標	指導事項	調査項目	
小1段階	活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴に関心をもつとともに、身の回りの生活において必要な基本的な習慣や技能を身に付けるようにする。	身の回りにあるものの仕組みや働きについて関心をもつこと。	【物と重さ】:物の重さに関心をもつことができる。	
			【風やゴムの力の働き】:風やゴムの力によって物が動く様子に関心をもつことができる。	
小2段階	活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴や変化に気付くとともに、身近な生活において必要な習慣や技能を身に付けるようにする。	身近にあるものの仕組みや働きについて知ること。	【物と重さ】:物には重いものと軽いものがあることが分かる。	
			【風やゴムの力の働き】:風やゴムの力は、物を動かすことができることが分かる。	
小3段階	活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わりに気付くとともに、生活に必要な習慣や技能を身に付けるようにする。	ものの仕組みや働きに関心をもって調べること。	【物と重さ】:物は形が変わっても重さは変わらないことが分かる。	
			【風やゴムの力の働き】:風やゴムの大きさを変えると、物が動く様子も変わることが分かる。	

段階	思考力、判断力、表現力等			判定
	段階の目標	指導事項	調査項目	
小1段階	自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて関心をもち、感じたことを伝えようとする。	身の回りにあるものの仕組みや働きに気付き、それを教師と一緒にみんなに伝えようとする。	【物と重さ】:「重い・軽い」という感覚を経験し、物には重いものと軽いものがあることに気付いている。	
			【風やゴムの力の働き】:風やゴムの力を利用したおもちゃで遊ぼうとしている。	
小2段階	自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて気付き、感じたことを表現しようとする。	身近にあるものの仕組みや働きが分かり、それらを表現しようとする。	【物と重さ】:天秤、ばね秤、台秤などの道具を使って重さを比べている。	
			【風やゴムの力の働き】:風やゴムの力を変えると物が動く様子も変わることに興味をもって遊んでいる。	
小3段階	自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて理解し、考えたことを表現することができるようにする。	日常生活の中で、ものの仕組みや働きが分かり、それらを表現すること。	【物と重さ】:粘土などの形を変え、手応えなどの感覚や秤をもとに重さを調べることができる。	
			【風やゴムの力の働き】:風やゴムの大きさを変えると、物が動く様子も変わることを試している。	

活動例
容器に水などを入れて重さを比べる 紙コップロケットといったゴムの力を利用した簡単なおもちゃ遊び
天秤、ばね秤、台秤といった道具を使う 色紙や色テープを使って風によって起こる空気の流れを観察する
粘土で重さの違いを調べる ウィンドカーといった風の力を利用したおもちゃづくり